

藤が丘まちづくりワーキングショップ

藤が丘の新たなまちづくり

藤が丘は昭和40年代の始めに「地区画整理事業でできた町です。藤が丘周辺の住民と名古屋市が協力し、地下鉄を伸ばし、新しい町をつくりました。その頃の藤が丘はまさに名古屋市の東の端にあり、東からの名古屋の玄関でもありました。

時が過ぎ、「愛・地球博」を迎えるにあたり、リニアモーターカーによる東部丘陵線が藤が丘の東に伸びました。藤が丘の町ができる頃、東をみれば緩やかな緑の丘が広がっていましたが、いまや、大小の店舗とマンションが林立するベッドタウンとなりつつあります。今、藤が丘は名古屋の東の中心になろうとしています。しかし、そのためには名古屋の東の中心にふさわしいまちづくりが必要です。なぜなら昭和40年代と今では、日本全体の社会の状況も、藤が丘をとりまく環境も大きく変わっているからです。

私たち、藤が丘まちづくり推進協議会では、新たな藤が丘まちづくりを目指し、万博終了と同時に、「駅前開発構想部会」を設立しました。進む名古屋市東部開発のなかで、藤が丘のあるべき姿を見出だすためです。

名古屋市東部の緑の丘に藤が丘のまちができる、今、約40年。あと10年経って、半世紀が過ぎた時、藤が丘はどうなっているのでしょうか。

その姿を成り行きにまかせるのではなく、住民自らが考え、夢を描き、現実に近づける、そのための部会です。

その第一段の姿はすでに小さな「町の模型」になって事務局に置かれています。まだ最初のイメージで、何の根拠もありませんが、さらに第2、第3の夢を形にしていく予定です。おひまな時、ちょっと事務局に立ち寄ってみませんか？そこには新たな藤が丘の夢が育まれつつありますから。

※藤が丘まちづくり推進協議会事務局は、藤が丘中央商店街振興組合事務局内にあります。このたび、4号棟1階に移転しました。お気軽にお立ち寄りください。

研修旅行を終えて

藤が丘学区樹木連絡協議会
大場敏子

例年厳しい寒さに見舞われる研修旅行ですが、今年は暖冬で、早春の風に誘われて、二月十七・十八日に「万石の城下町金沢、チューリップと花の街砺波方面に出掛けました。

参加者は各自治体、団体役員、幼稚園、中学校役所等からの出席を頂き、総計四十二名で、泣き出しそうな空模様に見送られ、藤が丘を出発しました。日

曜所、妙立寺に人呼んで忍者寺、建物の中は迷路、望楼、多くの隠し階段、複雑な建築

を頃見、金沢城址内の五十

門長屋英櫻などを見学し、南砺平野のかくれ

山温泉へ、湧き出る湯に身をゆだね、のんびり湯につかったり、

金沢城址内の五十門長屋英櫻などを見学し、南砺平野のかくれ

山温泉へ、湧き出る湯に身をゆだね、のんびり湯につかたり、

金沢城址内の五十門長屋英櫻などを見学し、南砺平野のかくれ

山温泉へ、湧き出る湯に身をゆだね、のん